

第2回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：平成 29 年 6 月 21 日（水） 15:00～16:10
2. 場 所：国立研究開発法人日本医療研究開発機構 206 会議室
3. 出席者：
（委員）喜連川委員、永井議長、成宮委員、堀田委員、山本委員

（事務局）末松理事長、菱山理事、梶尾執行役、泉統括役、松尾経営企画部長、岡安総務部長、星野経理部長、中村研究公正・法務部長、天野知的財産部長、岩本戦略推進部長、森田産学連携部長、野田国際事業部長、加藤基盤研究事業部長、吉田臨床研究・治験基盤事業部長、久保革新基盤創成事業部長、大場経営企画部次長
4. 議事
 1. 日本医療研究開発機構の自己評価について
 2. AMED 研究開発マネジメントシステム（AMS）について
 3. 最近の動向
 4. その他
5. 議事の概要
議長より開会する旨の発言があり、出席者の報告の後、評議会の議事に入った。

議事 1 について、事務局より、第 1 回研究・経営評議会での議論を踏まえ作成された外部評価報告書（案）について説明が行われた。

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- AMED 研究開発マネジメントシステム(AMS)を活用して各プロジェクトの資金配分を見ていくことも入れた方がよい。
- 機構の自己評価は妥当なものと評価できるというだけでなく、進展が見られた点を書かないとバランスを失うのではないか。
- AMED の体制やルールが整備されたことや、新たな国際展開や若手育成など、非常に評価できるものがあるので、そういったものを前提に更にこ

うということが望まれるというスタンスが分かりやすくなるとよい。

事務局は本日出た意見を踏まえ修正の上、外部評価報告書（案）を作成し、各委員に確認の上、最終化することとされた。

議題2について、事務局からAMED研究開発マネジメントシステム（AMS）の説明が行われ、委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 応募課題全般が研究者のニーズを表していると思われるので、応募課題の数とかがもう少し明らかになるとよいのではないか。
- オープン・アクセス・ジャーナルのAPC(Article Procession Chargeの略、論文を掲載する時に著者が支払う費用)は高額であり、研究費で負担されていることも発信が必要ではないか。
- 国際比較が可能となるデータベースであるかも大事ではないか。

続いて、議題3について、事務局から最近のAMEDの活動の動向について説明が行われた。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。